

# 藤波こども園

園だより

No. 8 1

令和4年3月24日

ホームページ [www.fujinami-ci.sakura.ne.jp/](http://www.fujinami-ci.sakura.ne.jp/) (藤波こども園で検索可)



旧 藤波幼稚園



現 藤波こども園

(tel 0740-32-0329)

## おめでとうございます。



卒園式前の緊張ほぐし

式辞で、みんなのよいところの一つに『周りの人を思いやることが出来る場所』と伝えた。式練習でも当日もその姿が垣間見られた。男児の手の差し伸べ方が実に自然で爽やかなのだ。手を引いてもらう子もためらわず実に素直に安心してその子の手を求めていく。その様子を見ていてじ〜んとしてしまった。いい姿をありがとう。

## 真砂土の楽しみ

少し前にお伝えした真砂土。もも組の園庭にどーんと山盛りに積んでおいたら、子どもたちが穴を掘り始めた。穴は少しずつ大きくなり、ひょっとしたら人がくぐれるかも、そこからは先生たちに手助けして遂にトンネル完成。と言っても乳児たちが張ってかろうじて通れる程度。でも子どもたちははほとんどくぐる。途中抜け出せなくなってしまった子がいたが、先生が引っ張ろうと助け船を出そうとするとその子は先生の手を払いのけて、自分が助けるんだと一生懸命になっている。引っ張ってもなかなか抜け出せないと反対に回って後ろから押そうとする。僕が助けるんだという気持ちが相当強いようだ。また、トンネルの中に入って気持ちよさそうにくつろいでいる子もいる。トンネルの上は橋になっている。崩れはしまいかという先生たちの心配のもとくぐっている子の上を子どもたちは平気で渡っていく。一度に数人が乗っても平気だ。

乳児たちにとって真砂土がちょうどよいというアドバイスは本当に的確だった。今回見事に子どもたちが証明してくれた。先生たちも予想しなかった見事な真砂土の作品ができあがり、子どもたちが思いっきり想像をかき立て、その世界に浸り、癒やされる体験をすることが出来た。またまた嬉しい出来事だった。



## 年長児の逆襲

先生にたたきのめされた年長の子どもたち、卒園前々日にどんでん返しがありました。最後にまた、ドッジボールをしようと言い出しました。早速元気もんの男児二人が、先輩先生を呼びに来た。内のひとりが強引に連れて行かれる先輩先生の横で、「当てたら戻るんやで」と小さな子に教えるように何回も繰り返している。先生たちはこの試合を、大接戦にして最後は子どもたちに花を持たせようと策略していたらしい。が結果は、先ず先輩先生が当てられ（ここまでは予定通り）、さあここからという時に担任の先生が受け取ろうとしたボールが想像以上に強すぎて真剣に当てられてしまった。でももう一人。ところがその一人もあつという間に当てられてしまい万事休す。今回、『ずる先生』と汚名を着せられた先輩先生は外野から子どもたちを当て中に戻り『ルールわかってるで』と名誉挽回を期すはずであったのに……となってしまった。子どもたちのパワーに圧倒された形であるが先生たちは笑顔だ。またいつの日か再戦をと思わなくもないが、ここからは力の差がつくばかりだろうなあ。



## 子どもあれこれ

### 給食後 シリーズ2

※なかなか食が進まないも組の女兒、先生が「給食のおぼちゃーん」と声をかけ白衣に調理帽姿の調理員さんが「どうしたん」と登場すると、なぜかスプーンを持って食べ始める。そんなに恐いわけではないだろうし、白衣に何か秘密でもあるのだろうか。まるで魔法にかかったみたい。



※調理員さんが卒園児にとって園で食べる最後のカレー給食時に「園最後のカレーやで、いっぱい食べてや」と言うと、子どもたち何人かが「園の給食の方が小学校よりおいしいし」??? そう言うと調理員さんが喜ぶと思ったんでしょうね。



※年長男児、給食の食材を持ってきてくれた会社の人に向かって「いつもお世話になってすいませ〜ん」とフェンス越しに呼びかけ、さらに「名前なんて言うの」と問いかけ、会社の人「南で一す」と応えてくれました。会社の人「この園の子はおもしろいですね」と楽しそうに帰って行かれました。

※お弁当の日のこと、「今日はママの作ったお弁当やねえ」「お弁当はどんな味？」と先生。乳児の返答は「あったか〜い味」。

※同じく1歳児「今日のホットケーキいいにおいやな」とせんせい。すると2歳児「ママもいいにおいする〜」どちらも和みます。



## 嬉しいお知らせ

中学校の卒業式の日、高島在住のMさん15歳から電話があった。「今日、中学校を卒業しました。春からは、大阪のT高等学校に入学することになりました。3月21日から寮生活を始めます。」多くの先生たちが知っていて、「おー！すごいすごい！」「わあー！懐かしいなあ」「へー！もうそんなになるのお」と感激ひとしお。先生たちは、覚えてくれていて、連絡をくれたことのうれしさと、これから始まるMさんの寮生活への不安な気持ちを思いやりながら。Mさんの未来に『さあ、どんな人生が展開するのだろう』と期待を膨らませ、応援しているようでした。



あんうつ  
暗鬱な雪雲と朝日